Over the Rainbow

大阪教育大学　国際センター発行　『オーバー・ザ・レインボー』2013年8月号

vol.13

TOPICS

■日本留学フェアinベトナム
■第8回かしわら国際交流フェスティバル
■地域の国際交流団体による交流活動
　教育支援金授与式
　スポーツ&ゲーム交流、ホストファミリープログラム
　七夕笹飾り体験
　留学生講演「異文化の暮らしを学習しよう」
■日本文化研修
　日本文化体験研修（～岡山・香川の名所を巡る）
　冬季日本文化研修（～大相撲観戦）
　春季日本文化研修（～伊賀・赤目方面）
■平成25年度前期修了留学生メッセージ
■スタッフ紹介
■国際センターの活動
　UNCW研修団受入
　新設科目紹介（「日本の伝統文化」）
　SICEPプログラム
◆留学生後援会入会のお知らせ

巻頭言

大阪教育大学　教員養成課程長　石田 雅人

『頭を冷やしてこそ、相互理解の第一歩』

写真：平成25年6月　春季日本文化研修（三重県）にて

巻頭言

頭を冷やしてこそ、相互理解の第一歩

大阪教育大学　教員養成課程長　石田 雅人

面白い記事が目につきました(朝日2013.4.1 福田宏樹)。デジタル画面が席巻する昨今、日本語の文章が横から横へと流れることが著しく増え、それとともに、日本人の「我」が前面に出てきたのではないかという指摘です。有名な書家の石川九楊を引き合いに出しながら、氏が縦に書いてこそ日本語なのだと主張しておられることを紹介しています。曰く、「紙には上下、すなわち天と地がある。地に向かっては重力が働く。その重力にそったり耐えたり、あるいは押し戻したりしながら、字をつづっていく。そこにはおのずと自制や自省が生じることになる」というものです。これを受けて筆者の持論が次のように述べられております。「縦に書く場合は『歴史や社会とともにある自分』が意識されること多く、横に書けば『私』がせり出してくる傾向があるというのは、実感としてよくわかる。手紙をしたためるのとメールを打って送るのでは、気分も中身も違う」、と。

この部分を読んだ当初はなるほどと思いましたが、じきに、果たしてそうであろうかという思いが強くなってきます(筆者の名誉のために付け加えると、記事全体では、互いが漢字文明圏であってこそ通じ合えるものがある、と説くためのプローグとして上記の部分を述べているものです)。それではなぜ違和感をもつのでしょうか。横書きの書が日常的にみられるからでしょうか(横書き書は正式の書ではない、現代風だと言われれば、引き下がります)。世界に目を転じてみれば、横書き書体のほうが縦書き書体より圧倒的に多いからでしょうか。このグローバル化の時代、縦書き・横書き文体でもって、ひとの心理特性を断ずるのは了見が狭いという声も聞こえてきそうです。しかし、これら例示のどれもしっくりときません。

結局は、ネット社会必需アイテムであるデジタル画面の宿痾(大げさですが)のもたらす弊害ではないかという疑念です。メール文を、固定のパソコンを使うにせよ、携帯端末(この言い方自体が古いですか?) を駆使するにせよ、作成するときは横書きが普通です。しかしこのことが問題をはらんでいるわけではありません。それよりも、ネット上のデジタル画面は、ひとを直情性と刹那性に追い込んでしまいがちなことです。即応性は、時に思慮を浅くする弊害をもたらします。また、他人と競って投稿する場合があれば、多くは他人への思いやりよりも、その時々にほとばしり出た感情が勝ってしまいます。

情報社会にあって、即応性・迅速性の大メリットを否定するものではありません。しかし、もう少し文章を頭の中で寝かせ反芻し、できた文章を見直してから送信クリックをしませんか。この「間」をもつことこそ、グローバル社会に生きる人々に必須の、垣根なしで適用できる大事なことのように思われます。国際人とは、最低限でも発信する情報の読み返しができる人ではないでしょうか。

日本留学フェアinベトナム

日本留学フェアの様子(ハノイ)

ホーチミン市師範大学日本語学部学生に講義をする向井国際センター長

ハノイ大学日本語学部のフォン副学部長(右)とハーさん(中央)
(ともに1997年度本学日研生)

ホーチミン市師範大学日本語学部チー学部長(左から2人目)と
ガー事務主任(左から3人目)

5月24日から28日までベトナムのホーチミン市とハノイで行われた日本留学フェアに参加しました。今年は、日越外交関係40周年を記念した「日越友好年」にあたり、日本とベトナム両国のいろいろな分野の関係が一層強化され、ベトナム国民の関心が日本に向けられており、来日留学生数も中国、韓国に続く台湾を追い越す勢いです。両都市とも2000人を越す高校生や大学生が参加し、本学のブースにはのべ100名ほどの熱心な留学希望の学生たちが訪れました。また、留学フェアの機会を利用して、本学に留学したことがあるホーチミン市師範大学日本語学部のカオ・レ・ユン・チー学部長(2003年度日研生)とハノイ大学日本語学部のファム・トォ・フォン副学部長(1997年度日研生)にお会いしました。両校ともベトナムにおける日本語教育の基幹大学で、本学との学術および学生交流を強く望んでおられました。

かしわら国際交流フェスティバル

第8回

「第8回かしわら国際交流フェスティバル」が5月18日（土）に大阪教育大学柏原キャンパスで開催されました。これは大阪教育大学と柏原市の共催で、地域の国際交流に寄与する目的で開かれるイベントです。前回に引き続き五月祭と同時開催で、五月晴れの中、会場は大勢の人でにぎわいました。フェスティバルは「各国料理を提供する世界の食卓・フードゾーン」「歌・踊りを披露するステージ」「各国の文化紹介をするふれあいテーブル」の3つのセクションに分かれ、本学留学生、日本人学生および柏原市民の方々が一体となってお祭りを盛り上げました。

「世界の食卓・フードゾーン」では、留学生が豆腐干・水餃子（中国）、湯圓（中国）、トッポキ（韓国）を提供しました。そして「ふれあいテーブル」では、中国の切り絵、中国語会話、台湾茶文化を体験してもらいました。また、モンゴルパートナーシップ研究所の協力を得てミニゲル組立、モンゴル占い、デール（モンゴルの民族衣装）の着付けなどを実施し、参加者は遊牧民の暮らしに触れ、楽しいひとときを過ごしたようです。一方「メインステージ」では、吹奏楽部によるオープニング演奏に続いて、長尾彰夫学長、中野隆司柏原市長による挨拶の後、プログラムが始まりました。地元柏原市の児童の皆さん「シラダンス・スペース」による創作モダンバレエ、同じく柏原市の児童・生徒の皆さん「ビーナス」によるキッズダンス、柏原市の団体「フラオ ナニフラリマ」によるフラダンス、留学生による韓国の歌とダンス、留学生支援団体「国際ソロプチミスト大阪-柏原」による艶やかな着物の着付け披露、留学生によるキルギス民族舞踊、フィリピンの民族舞踊「スブリ」、中国民族舞踊が拍手喝采の中、次々と披露されました。最後には、会場からのアンコールにこたえて急遽韓国の踊りの再演が決まり、大団円を迎えました。

地域の国際交流団体による交流活動

大阪柏原ロータリークラブ

教育支援金授与式

平成25年4月2日、大阪柏原ロータリークラブ様より、本学私費外国人留学生3名に1人24万円（月額20,000×12ヶ月）の教育支援金（奨学金）が贈呈されました。

教育支援金を授与された学生
- ・南 成賢（ナン セイケン）教養学科スポーツ専攻2回生 中国
- ・方 伝才（ホウ デンサイ）教養学科文化研究専攻3回生 中国
- ・謝 伊テイ（シャ イテイ）教養学科文化研究専攻3回生 台湾

経済的に厳しい状況で大学生活を送る留学生も多く、大阪柏原ロータリークラブ様のお志は、彼らが勉学を継続するうえで大きな支えとなっています。

支援金を受け取った学部3回生の謝伊テイさんは、「奨学金をいただいてありがとうございます。将来、私は日本で就職したいです。留学生や学生に関する支援団体に勤めたい。留学生の悩みを聞いて、自分自身の経験もたくさんの学生たちに伝えられます。悩みを持つ学生と一緒に成長したいです。日本社会の厳しさを分かっていて、簡単に就職できないかもしれないけど、頑張ります。これからもよろしくお願いいたします。」と感謝の気持ちとともに今後の留学生活の抱負と将来の夢を語りました。

グローバル香芝

スポーツ&ゲーム交流
ホストファミリープログラム

5月11日（土）、グローバル香芝様の主催で恒例のスポーツ&ゲーム交流プログラムが開催され、本学の留学生16名が参加しました。「スポーツは苦手」「ドッジボールなんてしたことがない」と不安がっていた留学生達ですが、会場となった白鳳女子短期大学の留学生と交流し、ひとたびゲームが始まると、皆ワイワイ楽しそうにボールを投げ合っていました。ランチの後に開催されたゲーム大会では、お互いすっかり打ち解けた様子で様々なゲームを楽しんでいました。

また、5月25日（土）には春のホストファミリープログラムが開催されました。これは留学生との交流をとおして国際理解を深めようという趣旨のもと、香芝市民の方々がボランティアで留学生を家庭に受け入れてくださるものです。

スポーツ&ゲーム交流プログラム

今回は11名の留学生が参加し、市民の皆さまのご家庭で交流を楽しみました。主催のグローバル香芝さま、留学生を受け入れてくださった皆様、素晴らしい機会をご提供くださり有難うございました。

参加者の感想

スポーツ&ゲーム交流参加者 劉シンイさん
（中国出身・大学院1回生 技術教育専攻）

スポーツ大会は思った以上に楽しかったです。日本文化の体験は勿論、色んな国の友達も出来ました。天気には恵まれませんでしたが、先生方のお陰で、良い一日を送りました。感謝の気持ちでいっぱいです。留学生の皆さんにお勧めします。

ゲームを楽しむ劉シンイさん（写真右）

シニア自然大学校

七夕飾り体験

7月3日（水）、シニア自然大学校の皆さまの主催により、今年度も七夕の笹飾り体験を開催していただきました。立派な笹を用意して頂き、笹飾りを行いました。今年度はシニア自然大学校様の御好意により、夜店体験ということで、ヨーヨー釣りが行なわれ、夏の風物詩も体験しました。

色とりどりの笹飾りに加え、それぞれの想いをのせた短冊で笹を彩りながら、シニア自然大学校の皆様と交流を深めました。今回は、本学留学生に加え、

JASSO短期受け入れSICEPプログラム（「日本における教育体験プログラム」）の研修生4名も参加し、丁寧なご指導を受けながら、隣の友人達と賑やかに笹飾りを作っていました。また、折り紙が好評で、日本の文化を満喫した一日でした。

柏原市人権推進課

留学生講演
「異文化の暮らしを学習しよう」

柏原市フローラルセンターで毎年実施されている講座、「異文化の暮らしを学習しよう」では、本学の留学生が講師を担当しています。2013年7月3日（水）には、ロシア出身の留学生、ダーリャさんが母国の生活や文化について紹介しました。ダーリャさんは、母国では日本語を専門に勉強している学生です。

シベリアにあるイルクーツク出身のダーリャさんは、世界一の透明度を誇るバイカル湖やそこに生息するアザラシやオムリ、世界一寒い村とされるオイミャコン村、「寒い国」という印象をくつがえすような黒海に面したリゾート地の様子など、スケールの大きな国、ロシアについてスライドを見せながら詳しく話しました。また、ボルシチ、ピロシキ、ブリヌイなどのロシア料理の話になると、会場は大いに盛り上がりました。

聴講された市民の皆様からは「ちょうどロシアへ旅行に行こうと思っていたので、いい話が聞けてよかった」「あまり馴染みのなかった隣国ロシアのことがもっと知りたくなった」等々、様々なご感想をいただきました。地域に根ざした国際交流の取り組みとして、今後も継続したいと考えています。

日本文化研修

日本文化体験研修　岡山、香川の名所を巡る

訪問地：岡山後楽園、倉敷美観地区、金比羅宮、中野うどん学校

平成24年度の留学生日本文化体験研修として、2月14～15日の2日間、留学生および引率教員あわせて36名が岡山・香川方面の名所を訪れました。寒空の中バスで出発した一行は、事前講義で学んだ内容を間近で見れる瞬間に胸躍らせました。日本三名園のひとつである後楽園の美しさに感激し、宿泊地となる琴平に向かう途中の瀬戸大橋では、橋のダイナミックさに留学生は心から驚いたようでした。琴平温泉で日本の温泉文化をゆっくり堪能し、翌日は金毘羅宮を訪れた後、旅の締めくくりとして中野うどん学校で初めてのうどん作り体験を楽しみました。例年より若干少ない人数での研修となった今回ですが、参加者は互いに交流しながら日本文化について深く学び、研修を満喫している様子でした。

【研修レポート】

著者：周 毓(シュウ ユウ)・中国出身・大学院2年 保健体育専攻

2月14日は最初に後楽園に行きました。いい天気に恵まれ、園内を歩き回って沢山写真を撮りました。さすが、日本三大庭園の一つとされているだけあって、とてもきれいですが、中国蘇州の庭園とは全然違う風景でした。丹頂鶴がいる鶴舎で身近に動物を見るのはとても楽しかったです。50分はあっという間に過ぎました。

次は倉敷美観地区の見学でした。私のような面白い場所が好きな人にとって、そこはいろいろな目新しいものがあり、魅力的なところだと思います。お土産店の他、陶芸工房など体験できる場所がありました。

青色の空、果てしない海。想像以上の美しさに、初めて四国に行った私は言葉を失いました。留学生を乗せたバスが瀬戸大橋を走るとき、称賛の言葉があちこちから湧き上がりました。「橋梁上部構造部分は、上部に4車線の瀬戸中央自動車道が走り、下部にJR本四備讃線が通る二階建ての構造であり、用途が二通りあることから『鉄道道路併用橋』と呼ばれている」と紹介された瀬戸大橋にビックリしました。現代日本建築の技術や素晴らしさに敬服する思いです。

一日奔走した私たちは、「琴参閣」という温泉ホテルに到着しました。色々なお風呂を楽しみ、すっかりリラックスできました。また、琴参閣のロビーから美しい雪山が見えました。

二日目は美味しい昼食の後、香川の名所金毘羅宮を訪問し、素晴らしい時間を過ごしました。途中で少し雪が降りましたが、皆一生懸命登りました。けれど山腰からいきなり急な階段を登ることになり、日頃の運動不足を実感してしまいました。

最後には、中野うどん学校を訪れ、うどんの手作り体験を楽しみました。麺棒を使うのは初めてで、普通のそうめんに比べ、麺の形が少し変になりました。

二日間の研修は色々な場所を見て回り、学ぶことが多くありました。また皆が仲良くなれたことがとても良かったと思います。

冬季日本文化研修　大相撲観戦

国際センター・春の恒例行事として定着してきた、大相撲大阪場所観戦。3月15日に25名の留学生が行ってきました。当日は出発前に国際センターの城地茂教授から相撲に関する事前講義を受け、心身とも準備万全の状態で会場の大阪府立体育会館へ向かいました。

事前講義の様子

どんな取組が見られるでしょう…

大阪府立体育会館前でパシャリ!

会場に到着すると、入場前から、出入り口付近で力士の到着を待つ相撲ファンの熱気が留学生を出迎えます。学生たちも、しばしの間会場前の華やかな雰囲気を味わった後、場内に入り観戦しました。土俵からはやや遠目の客席でしたが、力士たちがぶつかり合う音など、やはり間近で見る大相撲の迫力は圧巻です。留学生たちは取り組みごとに歓声を上げ、また近くのお客さんと一緒になって力士に声援を送っていました。また、通路に出て花道を出入りする力士たちの様子や表情をじっくりと観察しようとする学生もおり、思い思いにテレビでは味わうことのできない会場の空気を満喫していました。

大相撲春場所の取組

春季日本文化研修　伊賀・赤目方面

2013年6月1日（土）、春季日本文化研修を実施しました。留学生に日本の伝統文化をより深く理解してもらい、留学生だけでなく日本人学生との交流を図ることも目的とする日帰りのバスツアーです。今回は留学生57名、日本人学生6名、引率教職員4名が参加し、早々の梅雨入りで心配された雨に降られることもなく、一路伊賀方面に出発しました。

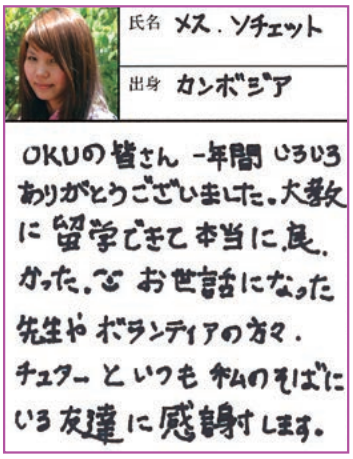
午前中は、伊賀の伊賀流忍者博物館を訪れ、忍者屋敷では「どんでん返し」「隠し戸」など数々の仕掛けやからくりの実演案内に歓声が上がりました。続いて忍者体験館や忍者伝承館で本物の手裏剣などの忍具をはじめとする展示物を見学し、当時に思いを馳せました。

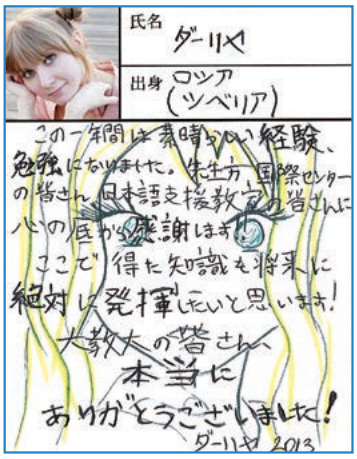
昼食をはさんで、午後からは忍者が修行したといわれる赤目四十八滝に向かいました。日本サンショウウオセンターで特別天然記念物のサンショウウオの個性的な姿に驚いた後、滝をつなぐ涼しい渓谷の遊歩道を歩いて大自然を満喫しました。

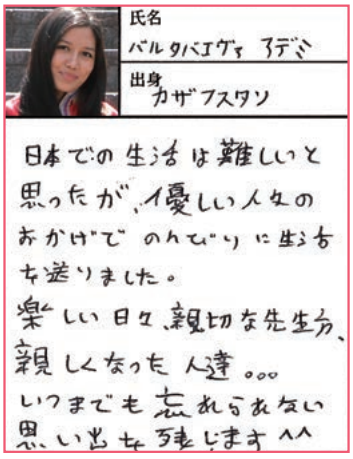
さらに、夕方には、奈良県桜井市の三輪そうめん山本の麺ゆう館に立ち寄り、参加者全員が麺延ばしを体験しました。切るうどんやそばと異なり、ひっぱって細く延ばすという独特の製法の一部を体験し、お土産に自分が延ばした麺を持ち帰って旅を締めくくりました。干していない生の素麺は珍しく、もちもちとした独特の味わいでした。

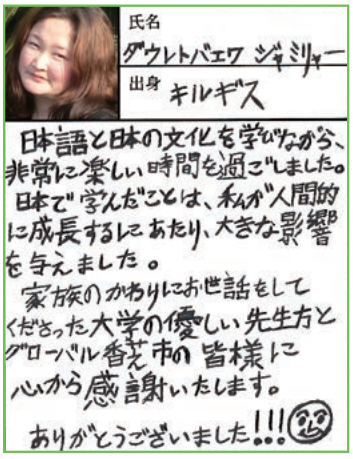
参加したみなさんには、充実した1日となったことでしょう。

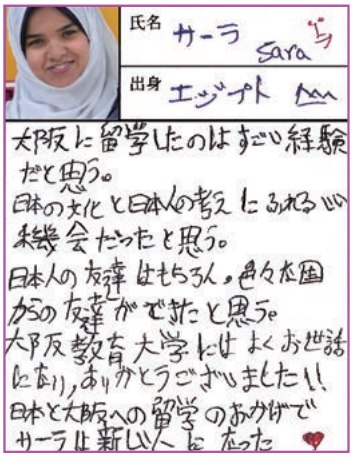
平成25年度 前期修了 留学生メッセージ

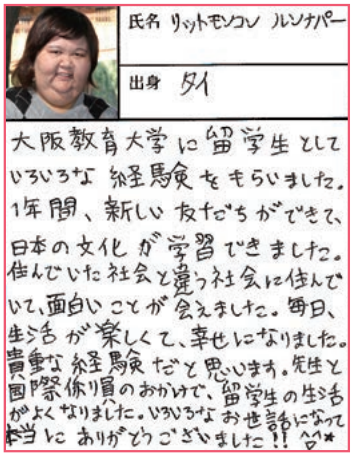


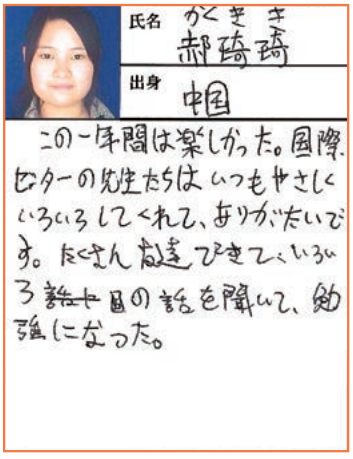


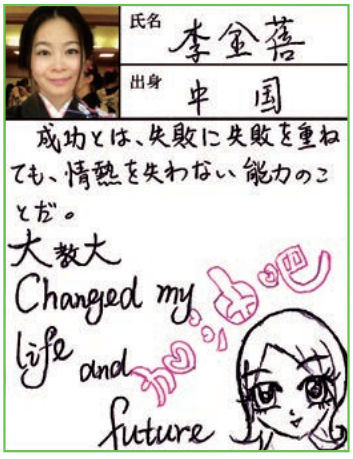












スタッフ紹介

国際係長 稲山智子

2013年4月に入試課から学術連携課国際係長に配置換えになりました。語学が堪能でもなく、この分野の経験がないことが不安でしたが、着任して数ヶ月、直面する課題をみますと、学外というよりも、まずは、学内の他部署との連携や、先生方のご理解とご協力をお願いすることが多くなるだろうと感じています。そこで、少しでもこれまでの経験が生きればと思います。よろしくお願いします。

国際センター・国際係(平成25年7月撮影)

氏名 宋妍
出身 中国

日本に来た後、日常生活や研修旅行などを通して、日本文化についてもっと深くわかりました。それに、いろいろな所に旅行に行って日本の自然の美しさも体験しました。

氏名 陳幼雯
出身 台湾

充実している一年間を暮せて幸せでした。またチャンスがあれば、ぜひ日本に来たいと思います！帰国しても、ここで習ったものを忘れないよう、歩いて行こうと思います。

氏名 林慧寧
出身 台湾

ここのイノシシは絶品だ。(冗談)

何よりも、人と人の出会い、縁は一番大切なものと思うよ!!

P.S. 国際センターいっぱいお縁情報があるよ!!

ダイコクドラッグストアと業務スーパー

氏名 ヘンセ クリスティナー
出身 タイ

大阪教育大学で留学しているのはとてもいい糸圣験だて思います。新しい友だちもできるし、日本で生活もできるし、それに毎日日本語を話す。私は日本ではじめてですから。日本に来られたのはすごくうれしいです。先生たちいつもお世話になれたので、本当にありがとうございます。

氏名 羊鍋勲
出身 韓国

1年の留学でとてもいろんなことができて楽しかったです。日本人だけでなく他の国の留学生たちにも会い、ていろんなことを話して自分にとってとてもいい経験になったと思います。

氏名 ソン ジウン
出身 韓国

いろんな経験をして、友達もたくさんつくりました!!
とても楽しい時間でした!!

氏名 パク ユンジン 朴允珍
出身 韓国

昨年9月、日本にきたばかりに たくさんの思い出ができた。色々な国の留学生とお互いの国のことも交流したり日本人の友だちと仲良くなって、楽しい留学生活を過ごしたと思う。そして、ここでの生活で何よりも感動だと思ったのは、勉強以外にもここで自分ができることや何が見つかることもと思う。

日本

氏名 裴成大
出身 韓国

始めてここ日本に来る時には1年は十分に長い時間だと思った。でも今、思い返したら1年はそんなに長い時間はないかと思う。日本のいろんな文化、名所を経験して見たが少なすぎ時間がもっとあったらと思う。限定されている時間のなかではできることも限定されていることばかな…また、いつ日本に来るかしらないが今の思い出を大切にしてほしい。

氏名 魏熙昇
出身 韓国

もともと日本人の価値観と文化を学ぶために決断留学だった。学校が主催する文化研修やホームステイも楽しかった。そしている交流、バイトをしながら価値観と文化の勉強もよくできたと思う。(がんばるとは言えない)

氏名 PEPIER Coline
出身 フランス

毎日色々なことを習ったり、すてきな人と友達になったりできて嬉しかったです。心を豊かにする一年間でした。一生ずっと忘れずに前に進みたいです。
一年間本当にありがとうございました。

氏名 サムソン.オーロラ
出身 フランス

今年ありがとうございます。
とてもたのしかった。
日本についてたくさん習いましたからうれしい。

氏名 アゲラ カミーユ
出身 フランス

イノシシにご注意ください!
♪1年が早く過ぎるので、♫
毎日楽しんでね!♪ ENJOY
楽しい生活のために、踊って!
『笑って、笑って
君の笑顔が見たい』
今年、おおさじゃ!!

氏名 徐易
出身 台湾

日本で住むことは私にとって、夢でした。自分の大好きな国に来れるのは幸せです。色々な物を見たり、人と出会ったり、所に行ったり、食べ物を食べたり、価値観を認識したりしました。人生の中で貴重な経験になりました。ここに来てよかったです。ありがとう~

氏名 吳佩儒
出身 台湾

日本に来てよかった
いろんな人と出会った、
いい思い出を作った。
一生忘れない

氏名 イ ギョンミン
出身 Korea

I'm satisfied with my life in oku.
All International center's faculty members are so kind.
Friends are so nice.
Classes are so interesting and helpful!
I'll never forget life in OKU!!

氏名 カンジウォン 姜智元
出身 大韓民国

日本語の重さが重たけど べんきょうしながら 日本語がずっと上手くなっているだと思います。いろんな友だちと一緒に話しまて、本当に楽しかったです。面白かった

国際センターの活動

国際センターでは、年間を通して様々なプログラムを実施しています。
ここではその一部をご紹介します。

米国ノースカロライナ大学ウィルミントン校（UNCW）研修団受入

本学と協定を結ぶアメリカ合衆国ノースカロライナ大学ウィルミントン校の研修団（同大学学生9名及び引率教員2名）が、6月17日（月）から6月19日（木）の4日間、同大学が実施する海外教育研修プログラムの一環として、各専攻グループ（幼稚園・小学校）に分かれて本学附属学校園をはじめ、公立小学校、私立幼稚園の視察を行いました。視察先では授業の様子を注意深く観察し、給食や昼休み等休憩時間には子どもたちと交流を楽しんでいました。小学校では絵本の読み聞かせを行う機会もあり、本場の英語で語られるお話に皆目を輝かせながら聞き入っていました。

また、学校視察を通して感じた日米間の教育現場の違いについて、より見識を深めるべく、小学校の教員と熱心な質疑応答・意見交換を行いました。

新設科目紹介（「日本の伝統文化」）

「日本の伝統文化」は平成25年前期に新設科目として開講されました。本学の芸術やスポーツの専門分野の教員が、日本の伝統的な文化についてオムニバスの授業を行っています。スポーツ分野では剣道の基本的な知識と実践、音楽分野では日本の伝統音楽について三味線等の楽器を通して理解を深め、芸術分野では日本の陶芸について作品作りを通して体験的に学びます。そして本学の茶道部と連携して、自分で作った茶碗で茶道を体験するなど、本学の学生との交流も行います。さらに、学外とも連携し、関西地域の伝統的な河内音頭や能について講師をお呼びして、体験的に学ぶことができます。このように、留学生はこの授業を通して様々な側面から日本の伝統文化への関心と理解を深めています。

2013 School Internship and Cultural Experience Program (SICEP)

7月3日（水）から18日（木）までの約2週間、「2013 School Internship and Cultural Experience Program (SICEP: 日本における教育体験プログラム)」として、国際センター主催による短期受け入れプログラムが実施されました。SICEPプログラムは、海外の協定校から「日本の教育」に関心を持つ大学生を受け入れ、日本での教育体験、すなわち小学校・中学校における教育実習（観察実習・研究授業）を通じて、日本に対する理解を深めてもらうことを目的として開始されました。

日本語知識のない協定校の学生にも「日本の教育」の優れた特徴を知ってもらえるよう、本プログラムの公用語は「英語」となっています。

プログラム初年度となる今回は、中国・香港にある香港教育学院より2名、アメリカ・ノースカロライナ州にあるノースカロライナ州立大学ウィルミントン校から2名、合計4名の参加者を迎えて実施しました。

SICEP参加者が日本の教育の基盤となっている「日本文化」を学んで自国へ持ち帰る一方、彼らが訪問する小・中学校の生徒たちにとっても異文化を体験する貴重な機会となることを願ってやみません。国際センターでは、135年を超える本学の歴史と伝統を存分に生かせる本SICEPプログラムを来年度以降も継続して実施したいと考えています。

会員募集中 留学生後援会入会のご案内

留学生後援会では奨学金支給、国際交流行事支援などを行っております。
ご関心をお持ちの皆様は、ぜひご加入下さい。

会費・納入方法

一般会員 学内職員

・一口1,000円/月、または一括・給与から天引き

特別会員 学外支援者

・振込　任意の金額を下記いずれか宛てにお振込下さい

ゆうちょ銀行ぱるる	三菱東京UFJ銀行　藤井寺支店
記号：14120　番号：96618321	普通預金　口座番号：5210211
名義：大阪教育大学留学生後援会	名義：大阪教育大学留学生後援会
（オオサカキョウイクダイガクリュウガクセイコウエンカイ）	（オオサカキョウイクダイガクリュウガクセイコウエンカイ）

・現金納入

連絡先　大阪教育大学留学生後援会　東・稲山　電話：072-978-3351,3300　E-mail：ryugaku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

Over the Rainbow vol.13
年2回発行　第13号　平成25年8月1日(木)発行
編集・発行／大阪教育大学国際センター
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698番1 http://osaka-kyoiku.ac.jp/ic/
連絡先／電話：072-978-3300 FAX：072-978-3348
E-mail：isc@cc.osaka-kyoiku.ac.jp